

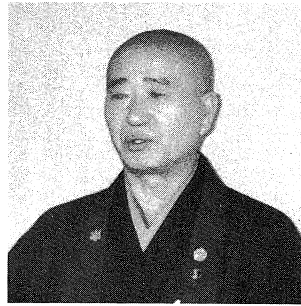
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045(661)0166

就任ご挨拶

横浜市仏教連合会

会長 横山 敏明



本日、戦後最大級といわれる台風十二号の猛烈な風雨の中で、皆様方に被害がないよう祈りながら挨拶のことは綴っております。去る五月三十一日の市仏教連合

会の総会におきまして会員諸師のご推挙を賜わり、不肖私が非才を省みず会長職をお受けすることとなりました。幸いに副会長の玄野孝善師、川上敬吾師、会計橋下賢明師、理事備前恭忍師の各先輩が引き続きお手伝い下さるとのことでありました滝川覚道老師の後です。で、何程のことが出来るかと不安でございますが、皆様方のご助言ご協力をいただき懸命につとめて参りたいと存じます。

平成七年は関西大震災に始まり、オウム教による一連の事件と何か変異の年のようにあります。政界しかり、全国各地の水による被害部分的な地震等が多く、復旧の目途も立っていないなどのレポート

があります。一日も早い平和な暮らしが戻るよう心の中で応援しております。私達寺院にとっても、宗教法人法の改正問題が狙上にあると、坐視しておられぬ感があります。かつて国家権力によって幾度か辛酸をなめた時代を招来しないよう、一致協力して参らねばならぬと存じます。新宗教、新々宗教と呼ばれる多くの宗教団体が、この宗教法人法の恩恵を最も良く受ける形態をとったことは否めませんが、さりとて、既成仏教各団が、その枠外にあったというところは出来ません。大多数の寺院が、どちらかといえば経済的基盤が弱く、更なる規制を受けると、その存立が危うくなる恐れがあります。現在でもなお本来の教団寺院としての有様が保ち得ないのですから、この改正問題が、正しい改革になるよう重大な関心を寄せて、見守っていかねばならないと存じます。

最後に、永年にわたり市仏連会長として、その円満な人柄で、私共会員を見守って下さり、会員の先頭に立って多くの事業の推進にあたられました滝川覚道老師に、深甚なる感謝の意を表すると共に、今後共、ご叱正、ご教導下さるようお願い申し上げます。就任のあいさつとさせていただきます。

市仏連役員名簿

名誉会長

梅田 信隆

顧問

志村 慎吾

顧問

柳 下隆侃

顧問

森山 正城

顧問

滝川 覚道

参与

福永 隆昭

会長

横山 敏明

副会長・会報編集指導

玄野 孝善

副会長・専務理事

川上 敬吾

会計

橋下 賢明

税務委員長

斎藤 隆法

墓地委員長

奈良 光雄

会報担当

備前 恭忍

会報担当

関水 俊道

監事

野沢 隆幸

監事

内野 公雄

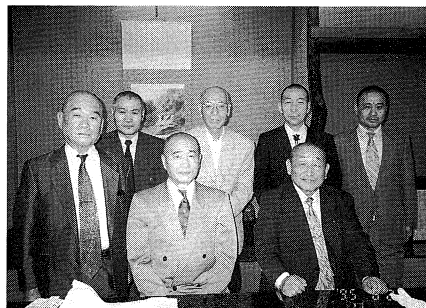
他役員

常務各理事

顧問弁護士

遠藤 隆也

市仏連釈尊奉讃会事務局長 程木 徳明



第二十一回釈尊涅槃会予定

実施要綱

- 一、会場 西区仏教会担当
- 一、日時 平成八年二月初旬
- 一、今年中に市仏連三役と西区仏教会とで会合を持ち、詳細を決め、各区仏会長様にご連絡を申し上げる予定である。
- 一、当日は改良服と略装束で法要式典、法話会に多数のご参列を願っている。ご香資は歓迎する。

県慰霊堂出仕当番表

- 平成七年十月五日 戸塚区仏教会
- 平成七年十一月六日 泉区仏教会
- 平成八年一月五日 栄区仏教会
- 平成八年四月五日 瀬谷区仏教会
- 平成八年六月五日 都筑区仏教会

第二十二回総会開催

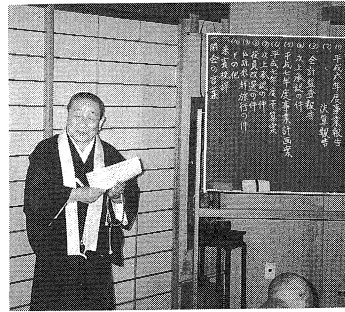
平成七年度市仏連第二十二回総会は五月三十一日午後二時から中区大平町西有寺において開催されました。

総会次第の順にしたがいまして先ず開会の言葉を市仏連副会長川上敬吾師がのべられ、続きまして市仏連会長滝川覚道師より挨拶をいただきました。挨拶の中で会長は「森山前会長の後を受けて会長は職を務めてまいりましたが四大不調のため今総会に於て退任させていただきます。就任申ただくことになりました。就任申は会員各位からあたたかい協力と賜り心から感謝いたしておりました。」とお言葉をいただきました。引き続き議長の選出に入りましたが本部一任ということで港北区仏教会会長程木徳明師が選出されまして議長席につかれ議案の審議に入



りました。第一号議案の平成六年度事業報告について川上敬吾専務理事が説明し、この中で本年度は特に阪神大震災義援金として五十万円を一月二十三日に神奈川新聞社に付託、又二月十一日の涅槃會法要の折阪神大震災の犠牲者追との回向をしたことが報告されました。第二号議案の平成六年度決算報告について会計橋下賢明師より説明がなされ、第三号議案の会計監査報告は監査役が遅れて来るので参ったら報告を受けることで諒承されました。第四号議案で以上三議案の質疑応答に入り全て異議なく拍手をもって承認されました。続いて第五号議案平成七年度事業計画案の説明が専務理事よりなされました。事業のうち第二十一回涅槃會は西区仏教会が担当に当っておること。市仏連会報は四十一号、四十二号が発行されること、税務問題、墓地問題の研究をそれぞれの委員会で二回ぐらいつつ実施することが説明されました。又呉慰靈堂奉仕の件で泉宗教連盟の理事会の折神道協会より一月の当番を二月と交換してほしいとの申し入れがあり諒承されたので平成八年一月五日に仏教会が出仕することになったとの説明がありました。一月五日では寺院方は新年の挨拶まわりで忙がしく、とても出仕できる状態でないので一月十日前後に日時を変えてもらうように泉遺族の方へ宗連を通して

じて申し入れを行うようにとの意見が出され諒承されました。第六号議案で平成七年度予算案の説明が会計よりなされました。第七号議案で以上二議案について質疑応答がなされた結果、両議案とも原案通り可決されました。第八号議案で平成七年度の役員選出について役員選考委員長の瀬谷区仏教会会長の尾崎正恵師より選考の経過並びに結果報告がなされました。この件で選考委員会を平成七年一月十三日に開催し慎重審議した結果現会長滝川覚道師が健康上の理由で会長職を固辞したのでを受けて候補者を一人だけにしり市仏連現参与であられる西有寺住職横山敏明師が全ての面で最適任者であるので就任要請することに決定し、ご本人固辞するところを時間をかけて強力にお願いいたしましたところようやく委員会の意向をご理解いただき承諾をいただくことが出来ましたこと。又副会長二名は現職留任の承諾を得ることが出来ましたので委員会として以上三名を選考いたしましたのでここに推薦いたしますとの提案があり議長が当



案件の賛否を求め全員拍手をもって提案通り承認されました。ここで横山敏明師より新会長に就任するにあたっての力強い決意が述べられ、この中で市仏連尚一層の発展のために努力するので会員各位の暖い協力を是非賜りたいとのお言葉をいただきました。第九号議案仏跡参拝旅行の件は明六月一日大光院、饒阿寺参拝を実施いたしますとの報告がありました。第十号議案その他のところで南、港南区仏分割についての提案があり検討することに決まりました。奉讃会増強の件について各区仏の会長は奉讃会の理事も兼ねておるので奉讃会の発展のために強力な力添えをしてほしいとの要望があり諒承されました。以上で議案審議はとどきおこりなく終了し引き続き来賓の祝辞を泉仏教会会長福永隆昭師より賜りました。祝辞の中で本年

市 仏 連 諸 役 会

平成七年六月二十三日(金)午後六時に桂月で市仏連の役員会がもたれた。先の総会で会長の新旧交代が承認されたからの初役員会である。先ず委嘱状の授与を行う。総会の時には間に合わなかったので、滝川覚道会長から横山敏明師に会長委嘱状が、そして横山敏明師に副会長から滝川前会長に顧問職への委嘱状が渡された。副会長に女野孝善師(長昌寺)、同職兼専務理事に川上敬吾師(松蔭寺)、会計に橋下賢明(浄念寺)、会報担当

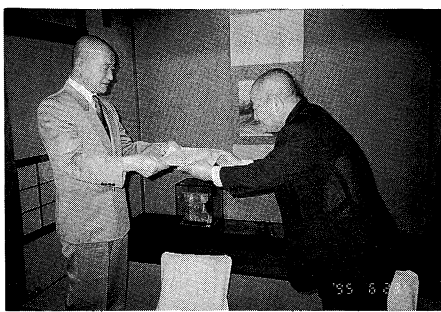
は宗教界にとって多難の年何が不足しているのか多くの宗教があらわれ世間に波紋をおこしており誠にゆゆしき問題であり仏教会としても考えなければならぬ時でありこのような時にこそ活力ある会として発展することを望みますとのべられました。ここで閉会の言葉を市仏連副会長女野孝善師が述べて第二十二回総会は無事終了することが出来ました。休けい後斎藤隆法師を講師に迎え、税務問題に関する講演をいただきました。師は税務行政にたずさわっておったので当然ながら税に関しては大へん詳しく問題点など丁寧に話されとても有意義な内容でした。終了後懇談会をもちなごやかなうちに午後五時散会いたしました。会場の西有寺さまには大へんお世話になりました心から感謝申し上げる次第です。

に備前恭忍師(西福寺)と関水俊道師(東泉寺)等々と各委嘱状が横山会長から渡された。

出席者は滝川覚道顧問、横山敏明会長、川上副会長、専務理事、橋下会計、備前と関水両会報担当、程木徳明市釈尊奉讃会事務局(東照寺)の七名であった。

滝川覚道前会長退任の弁。私が二期の会長職にあつた時に、三役を始め他諸役、各理事の方々絶大なご協力を賜り、お蔭で大過なく会長の職責を果すことができました。御礼を申し上げます。

もう一期どうですかと選考委員会はより期待されましたが、体調不十分で何時、職責を放り出して迷惑をかけるような事態を起すかも知りませんので、御辞退を申し上げた次第です。幸いに西有寺の横山敏明老師という立派な会長に、あとを就任いただき、安堵し且つ、喜んで退任できます。三役、諸役、程木老師も引き続き、新会長に協力して市仏連活動を盛り立てて下さるよう、お願い致します。至らぬ会長でしたが、御支援いただきましたたうえに、本日このような慰



労の席を設けてくださり、誠にありがとうございました。今後は顧問としてできることは、お力添えを致します。

横山敏明新会長と挨拶。長いこと市仏連事務理事、副会長、参与と当市仏連合会に係わってこられました。滝川僧正、大任ご苦労さまでした。前会長のスタッフが全員留任して支えていただけたというところで就任を承知しました。各役に

補佐をつけ、仕事を順調に引き継がせる、スタッフの充実をはかることが急務と考え、手始めに会報担当を増員し、関水俊道師に入ってもらいました。市釈尊奉讃会と市仏連との密接な関係がお互いの会に、望ましい相乗効果・成果を及ぼすことはいうまでもありません。

第十二回春の仏跡参拝記

六月一日(木)、横浜市仏連合会主催の恒例の古刹巡りを実施した。日中は日射しも強く、記念写真を撮る時などは、まぶしくて目を開けるのに苦心した。帰途の午後五時頃、湾岸道路や横浜市街でにわか雨が降ったが、帰着の時には止んでいたため、良天気に恵まれた旅行といえよう。

参加者は十六ヶ寺の二二一名、三台のバスに分乗して、朝の六時半から七時半までの頃に、横浜各所から出発し、埼玉県の蓮田サービシアで九時半に合流した。

群馬県太田市の大光院におまいりました。午前十時五〇分から約一時間を過ごした。「子育て呑竜(どんちゅう)さま」の大光院は、浄土宗に属し、慶長十八年(一六一三)新田氏を先祖とする徳川家康が、始祖新田義重を追善するために建てた寺である。正しくは「義重山大光院新田寺」という。呑竜上人は武蔵の国に生まれ、十三歳のころに、同国林西寺でお坊さんになり曇竜と号した。のちに悪竜を呑む夢をみて、呑竜と名を改めた。十五歳の時に江戸の増

ん。程木徳明事務局長にも本日は参加を願った訳であります。皆様今後共よろしく、協力、支援のほどをお願い致す次第です。ささやかな慰労、就任の清宴に移り、会の運営の事などをざっくりばらんに話し合い、有意義な懇親会を了えた。

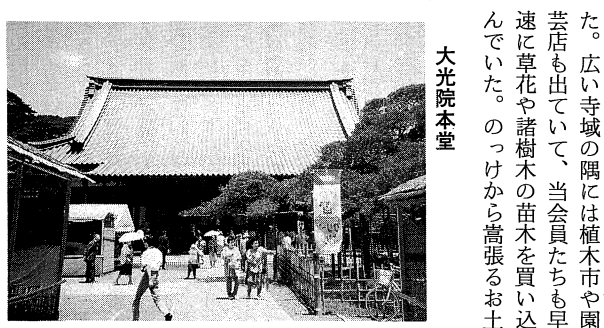
上寺にゆき、観智国師源誓上人の下で修学。故郷の林西寺の住職になった頃、ある年の夏、日照りが続いて水が不足した時、雨乞いの祈とうをして、「なむあみだぶつ」を百万遍も唱え、恵みの雨が降り、農民の期待に応えたりした。旅に出て各地に寺をたて、病人や貧しい人々に、お念仏のご利益をさずけて大変に慕われた。滝山の

大善寺の住職になり、やがて天下の大將軍徳川家康の信任をうけ、徳川家の祖先をまつる大光院の開山として太田に來住した。しかし上人は、住職の僧位をはがれて国内を流浪したことがあった。保護

鳥の鶴を殺して罪に問われ、逃げてきた者をかくまった。上人はそれで罪を問われ、その後六年に及ぶ流浪の人生を送るも、仏道のためには命を惜しまない勇氣ある徳行と認められ、罪をゆるされ、十六歳の時に帰山した。大光院に捨て子があつた。「貧しくて止むなく捨てたのだろう、子供を捨てて罪を作らせるな、寺で育てよう」と評判になった。「捨てて迷いを

押し止めて、育ててみれば可愛い子供なのに」と、親の罪を戒めながら、七歳までは名儀上大光院の弟子とする名案を考えて、自身や寺の運営費用を切り詰めて、子供たちの救済をはかったのである。六十八歳で入寂された呑竜上人の高徳に寄せられる庶民の尊敬と信仰の念は平成の今日まで引き継がれ、体の弱い御子様の御弟子入り

をすすめ、無事成長身の上安全の御祈禱を致すので、各地から参詣に來る。大光院様の不都合で建物の内へは上がれず、本堂向拝の階段下で般若心経を唱和し勤行した。開山堂へもお詣りをした。ちょうど、大光院の境内では、さつき展が開かれていて、盆栽に素晴らしいサツキを色とりどりに咲かせて、わたしたちの目を楽しませてくれた。広い寺域の隅には植木市や園芸店も出ていて、当会員たちも早速に草花や諸樹木の苗木を買い込んでいた。のっけから嵩張るお土



大光院本堂

本品をぶらさげているのを見て、ご苦労なことと思つたが、余所では売っていない品物だったので、それはそれで良い買物となった。昼食は太田市内の吟味豪族料理店「新田乃庄」で太平記料理膳をいただいた。白木の盆に素焼きの皿の食器類を使った、新田に伝わる「ほうとう」や勝ち飯といわれた「もっそもし」を中心とした、八百年前の献立に則つて現代風に再現した料理ですとは宣伝チラシの文句である。実際に美味しいかったという人が多かった。

午後二時頃から三時二〇分まで栃木県足利市の真言宗大日派の本山の饒阿寺(パンアジ)に参拝した。パンナ寺は足利市の中央にあり、南に足利学校が隣接している。創建以来八百年、「一度として災火の厄に遭わず」という。四万平方mの広大な寺域は、ほぼ正方形で、まわりに堀をうがち土塁をめぐらして、各面に入入口をつけ、

本堂前にて法案

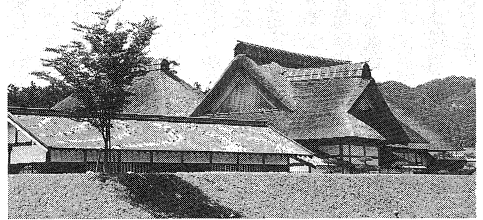




横浜市仏教連合会仏跡参拝記念 於：大光院 H7. 6. 1

南門を正門として反り橋を配して
いる。足利市の邸宅のあとで、鎌
倉時代の地方豪族の様子がしのば
れる。五間四面の本堂は入母屋造
り。重層の瓦屋根は大ききのびや
かで見事である。寺は建久七年（
一一九六）に足利市二代目の義兼
が晩年出家得度をし、パン阿上人
と称して邸宅内に胎藏界大日如来
を安置したことに始まる。本尊大
日さまの本堂内に上り、滝川覚道
市仏連会長導師の御発音で般若心
経をねんごろに誦誦唱和した。川
上敬吾市仏連副会長の開式のこと
ば、滝川団長のお話し、程木徳明
市釈尊奉讃会事務局長の入会の勸
め、パンナ寺ご住職から寺院の由
来と足利氏の歴史について詳しく
説明があり、よい勉強になった。
ご住職は市仏連団参の急報を宿泊
先で受け、早朝一番に寺に戻り歓

史跡・足利学校



迎の仕度をされたとのことを聞き
一同感激し「大日さまの寺」に親
しみが湧いた。

開基義兼公の出家の道機につい
ては、時代風潮のしからしむると
ころであろう。鎌倉幕府はその成
立の過程から終滅の道程まで、特
に血なまぐさく、骨肉相食む苛烈
なものであったから、武士にして
功成り名とげても、心安からず出
家遁世した例は多い。足利義兼も
高野山に登って宝幢院に止住し、
法号をパン阿と称したことから、
金剛山仁王院法華坊パン阿寺と氏
寺に名づけた。「パン」と「阿」
は真言宗の教理を示す金剛・胎藏
両界大日尊の種子である。「一言
芳談」に宝幢院本願の法語がのっ
ており、「昔の上人は道心の話を
し、次の上人は法文を談じ、当世
の上人は合戦物語をする」といっ
たのは、正しくパン阿上人の言の
ように思われる。京都室町に足利

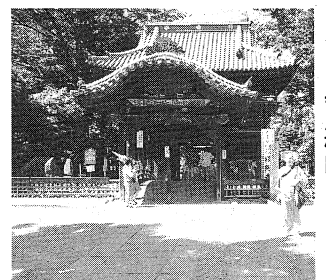
幕府を開き初代将軍となった足利
尊氏は、義兼六世の孫にあたる。
本堂左手の経蔵の内部には八角の
輪蔵（経本庫棚）があり、押して
一巡りすると一切経誦誦の功德が
あるといわれ、各自が体で押し回
してみた。その経堂内に足利幕府
歴代将軍坐像が並ぶ。尊氏から義
昭に至る十五体の像である。昭和
初期から第二次大戦が終わるまで
は、朝廷に背いた逆賊として足利



パン阿寺本堂

一族が冷視された時代であった。
氏寺と開創され、坂東武者の信仰
の拠り所であったパン阿寺が一般
大衆の参詣所となったのは明治以
降のことで、各先師の努力の賜物
と感謝する。今はどなたにも気軽
にご参拝いただいている大衆性の
ある庶民の寺として親しまれてい
る。大日如来大祭やばけ封じ、七
・五・三祝禱会の厄除護摩焚き祈
願厳修に多くの篤信者がお詣りに
来られる。この日も、赤ちゃんを

抱いた、お宮まいりならぬ、お大
日さままいるの家族連れが何組か
おられた。国宝重文の大御堂、鐘
楼、一切経堂、仁王門、反り橋、
校倉、多宝塔など、二〇余りの建
物を持つ境内では、老人たちが静
かにベンチに腰をおろし憩い、女
性のグループが弁当を開き談笑し、
保育園児たちが嬉々として飛びは
ねている和やかな光景がみられた。
帰途の車中では、添乗員さんが
会員有志から預かって大光院とパ
ン阿寺で押して貰った御朱印張を
返していた。今秋には心に思い出
になる旅行として長野県の善光寺
俳人一茶の記念館、越後に禅僧良
寛さんの遺跡を訪ねる二泊三日の
旅を企画してある。十月十七日、
十九日のバス旅行で費用は五万六
千円である。是非共ご参加いただ
きたいと主催者からお話しがあっ
た。玄野孝善市仏連副会長が川口
のサービスエリアで三台のバスに



パン阿寺唐橋門

出向いて、今回の仏跡参拝参加の
謝辞をのべ、総締めを申された。
「既に、何回かご参加の方は、御
朱印帳が六冊七冊と、なかには十
冊を越えた方もいられます。また
掛け軸用にお作りになって床の間
にかけてある方もいられます。こ
れは、お金で買うものではなく、
自分の足でこつこつとためた一生
のお宝です。ぜひ皆さんも始めて
みませんか。多数のご参加、熱心
なご参拝、まことにありがとうございます
ございました。次回も皆さんと一緒
に心豊かになる旅次ができますよ
うに期待、祈念致します」。各車
共、夕方六時過ぎに横浜に帰着し、
会員は無事、家路についた。



パン阿寺本堂内にて

参加の寺院名と人数は次の通り
です。一号車 西福寺様十四名、
宗川寺様二名、宝蔵寺様七名、最
勝寺様二名、徳善寺様一名、長昌
寺様十二名。二号車 海照寺様十
七名、安養寺様二名、金童院様四
名、松蔭寺様五名、西量寺様四名
正観寺様四名、天然寺様二名。三
号車 東照寺様十一名、保福寺様
八名、大善寺様二十五名。

会報を編集して十数年

市仏連副会長 玄野 孝 善

私は市仏連会報の編集に携わって十数年になりました。思い返してみますと、志村慎吾老師が会長をお務めいただいた時、現会長の横山敏明老師が、専務理事をお務めいただいたておりました。

私はその当時、保土ヶ谷旭区仏教会の役員として、地域仏教の興隆のため、できないながらも努力しておりましたところ、市仏連からのお誘いと、区仏からの推選で市仏連の役員に就任しました。

自分では、区仏を単に大きくしたものと気軽に引受けたのはよかったです。開けてびっくりしたのですが、志村会長より横山専務の事務引継ぎをどうぞよろしゅうとの言葉、思ってもみなかった事だけに、今後はどうしたらよいか、肩の荷がずっしりと重くなり、それ以来肩こりというものをおぼえるようになってしまいました。

会合の時は、司会と併せて記録をとらねばならず、会員諸師への御案内状の作成、そして印刷、封筒のあて名書き、それに役所関係新聞社との連絡、各区仏との連絡や県仏との連絡と事務多忙の日が過ぎました。その中で一番大変に感じた事は、この市仏連会報の編集です。当時は会報の係がいま sense でしたので、会計担当の森山正城師のアドバイスを受けながら編集をしました。

原稿を依頼しますと、原稿用紙に書いて下さるのはまずまずですが、中には便箋に書いて下さいまして、矢印がひびいてあって、あっちへ飛んだり、こっちへ飛んだり、中にはしり切れとんぼの文章があつて、あとをどうつなごうか困ってしまった時もあり、電話で確認をとったり、それはそれは大変でした。

そして何よりも困ったのは自己流の字をお書きいただき辞書引いても出てこない、それには全く困りはてました。

会報は、一段が三十九行で字数は十五字とまっています。ですから便箋やノートの切れはしに書いて寄稿されたものは全て、十五字の原稿用紙に書き変えなければなりません。その手間が大変でした。今のようにワープロなんていう機械はまだありません時代ですから全て手書きでした。

中には誤字や脱字もあり辞書は必ずデスクにおいて、常に使用し間違いない原稿づくりをしなればなりません。日中は檀務等がありますので、いつも夜、一人で三時間くらい、三日〜四日編集に時間がかかりました。

やっと原稿の整理が終わり、今度は割付表にしたがつて原稿を割付けてゆきます。

これが、また大変で途中に空白がきたり、あるいは、困ったことに原稿が入り切れない場合もありました。

そこでカットを入れたり、文章の内容をそこなわないように文面を切りつめたりしたものです。

そして、ようやくできたものを印刷屋さんに渡します。

約一週間くらい待ちますと、印刷屋さんから校正をお願いしますと、下刷りの印刷がとどきます。

それを赤ペンを片手に校正に入り約三時間は要します。よく校正しておかないとミスプリントのまま会報ができてしまうからです。再び印刷屋さんに校正したものを持参し本刷りとなります。

また一週間くらい待ちますと、はじめて会報のでき上りになります。ここまでは、原稿を依頼して早くして一ヶ月から一ヶ月半はかかります。依頼した原稿がなかなかそろわないので、催促の電話をしたところ、忙しいのに何を言ってるんだと、大声でしかられてしまったこともありました。

何度催促しても寄稿して下さいませんので、しかたなく、他の原稿で穴うめをして発行したところ今度は、俺をバカにしているのか君はと、またおしかりの電話をいただきます。ありがとうございました。

ちょうどその時の気持は本山に安居して古参にいびられている時の様でした。

そんな場面も何度かのりこえて志村会長から柳下会長に、そして森山会長にと、会長はバトンをつ

ツチして、私席はそのままでした。そうこうしている内に市仏連再発足四十周年記念事業が催される時が来ました。

そのころから会報にも助手をつけてもらえるようになり、うんと心強く感じました。それが瀬谷区の西福寺さんでした。彼が非常に綿密に編集にとりくんでいただけなので鬼に金棒でした。

特に記録をとることは頭の下がる思いでした。新聞記者の如く、常に片手にカメラ、そして筆記用具は手から離しませんでした。時にはテープレコーダーを持参し講演の要旨など寸分も落とすことなく会報にのせる事ができました。よって四十周年の記念誌も、はじめてでしたが、他の仏教会に劣るような事はなく大変にすばらしいものになりました。

会報は、活字として印刷され、それを保存しておくことによつて市仏連の「あゆみ」がわかります。今後の資料にもなります。

よって誤字や脱字、またさらに写真等の配分によつて一目でわかりやすく読みやすいように編集をすることが大切で、いつもそれを念頭において編集にとりくんでいます。たった年に二回の発行ですが、それだけに今後も力を入れて編集にとりくんでゆきたいと思っています。

今年からは、編集員も一人増員しました。泉区の東泉寺副住職さんです。若い人のアイデア、そしてパワーで横浜市の各寺院に正しく情報を送りたいと思っています。

す。各寺院の住職さんは毎日多忙で筆など持つひまがないかもしれませんが、各区のできごと、あるいは自坊のできごと、また旅の思い出、趣味を生かした写真、あるいは絵画、スケッチ、俳句等、自分だけにしまっておかないで、ぜひ市仏連の会報担当係までお寄せ下さい。地域のできごとと写真はまじえていただくと同層とひき立ってまいります。また今年には特にオウム真理教が、数々と報道されましたが、世相について感じた事、思った事などでも数々の寄稿をよろしく願ひ申し上げます。

私は市仏連にお世話になつて十数年になりますが、これも一つの奉仕活動だと思っています。

今年の阪神大震災では多くの方がボランティア活動に出ました。が、活動をする事によって、自分に収益はありませんが、仕事を終つて本当によかつたな！と思う気持は何にも変える言葉はありません。しかし、そこには数々の多難があります。その難を一つ一つのりこえて、社会勉強をさせてもらい、数々の人と交流もでき自然と自分に智慧がついてくるものと信じています。このように報酬のない仕事は、報酬のある仕事とちがつて、楽しい思い出が数々のこります。ボランティア活動は報酬を求めて働くのではありませんから、お互いに気分よく働くことが特に大切です。今後も会員諸師に喜ばれる会報をめざしてゆく所存です。よろしくどうぞ。

横浜市市仏教連合会 平成6年度収支計算書

収支差金 1,709,972円
入出引金 1,442,274円
差金額 267,698円
(目次) 6 年 4 月 1 日 至 平成7年 3 月 31 日

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include ①会費収入, 1.会費, ②雑部金, ③前年度繰越金, and 収入合計.

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include ①総務費, ②需要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費, and 合計.

次年度繰越金 267,698円
平成7年 3 月 31 日

上記の通り収支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 滝川寛通
会計 橋下賢明

監査の結果 相違ない事を認めます。
平成7年5月14日 監査 行川隆彦

横浜市市仏教連合会 平成7年度歳入歳出予算書

歳差金 1,934,698円
入出引金 1,934,698円
差金額 0円
(目次) 7 年 4 月 1 日 至 平成8年 3 月 31 日

Table with columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減 Δ. Rows include ①会費収入, 1.会費, ②雑部金, ③前年度繰越金, and 合計.

Table with columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減 Δ. Rows include ①総務費, ②需要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費, and 合計.

平成7年 4 月 1 日

上記の通り歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 滝川寛通
会計 橋下賢明

支部だより

港 北 区

現状

昨年秋、十二ヶ寺が都筑区に分かれ、八木会長さんもそちらへ移られたので、小生が会長となりました。今は会員四十七ヶ寺で四月から新体制で発足しております。役員は左の通り ※印は地区理事を兼ねます。

- 会 長 東照寺 程木徳明
- 副会長 金蔵寺 内田大寛
- 会 計 正覚院※山岸元雄
- 地区理事 陽林寺※東 詰臣
- 貴雲寺 渡辺道春
- 永昌寺 三ッ堀哲宗
- 西光院 永井見良
- 興禅寺 金子慈淵
- 庶 務 東照寺副程木昭徳
- 会計監査 光明寺 植野法稔
- 長円寺 横川直治

年度行事は例年の通りですが、四月一日の花まつりは午後二時に



綱島東照寺会館で開かれ、行事のち白象を幼稚園児、子供会会員と各寺世話人で引いて僧侶の先導のもとに街頭へ出ました。綱島駅頭と「ヨーカドー綱島店」の前でそれぞれ街頭募金、「阪神大震災義援金募金」ののぼりの下で、「もっ」と送ろう被災地へ」と声を囁らして約一時間、集まったお金は計十二万円、四月三日に読売新聞社に寄託しました。(既にこの前に区仏教会の会計から、一月二十八日に二十万円を送付してあります)。六月二十六日は区仏税務研究会で二十二ヶ寺が参加、神奈川税務署から三名お見えになり、「寺院税務の現状と問題点」というテーマでおこない、主な質問内容としては、

- (1) 法事などのあとと食事をしたりするとき、料理屋からお礼をもってきたときの謝礼は？
 - (2) 墓石業者等の謝礼は？
 - (3) 本堂、会館を檀家以外の者に貸したときの謝礼は？
 - (4) 他の寺院の僧に法要などの出仕を依頼したときの法礼は？等々。
- 他に「特別減税のあらまし」、「収益事業課税の税務」についての説明があり、大変よい研修になりました。

七月二十六日(金)に第十二回鶴見花火大会があり、今年も区仏教会の灯籠流しが花火の上がる前に行われ、今年は千二百灯の灯籠が川面一ぱいに灯をともして流れ、阪神大震災をはじめ、慰霊の思いは区仏教会の僧侶の皆様の高らかに誦する「般若心経」の声に和して、

て、厳かな法悦の一時が参加者十数万人の前にくりひろげられました。この行事は来年もつづくでしょう。もっ」と、み仏の教えが広まるのを念じて努力したいものと考えます。



金 沢 区

- 2・28 第四十九回花祭り臨時総会、於九佐工門。議案、花祭り、阪神淡路大震災義援金報告。
- 4・1 花祭り準備、於富岡慶珊寺、長昌寺。
- 4・2 第四十九回花祭り大会、大会会場慶珊寺、出発会場長昌寺。稚児参加人数六十名。
- 5・9 理事会、於時田壽司。
- 議案、決算及び予算、役員改選。
- 5・15 定期総会、於光伝寺。
- 議案、役員改選の件。
- 新会長光明院、副会長長昌寺、会計禅林寺。
- 6・7 釈尊奉讃会旅行「観福寺参拝とあやめ祭り」参加二七名。

戸 塚 区

- 6・8 理事会、於称名寺。
- 議案、文化講演会、交通安全祈願会、他
- 7・24 臨時理事会、於正法院。文化講演会の件。
- 7・28 宇野忠夫釈尊奉讃会長卒寿記念の会、於テラノタワーホテル。三役出席。
- 8・21 臨時理事会、於正法院。議案、文化講演会抽選、戦没者慰霊祭。
- 9・2 仏教文化講演会、於金沢公会堂、午後六時より。講師、永六輔氏、テーマ「大往生」入場人数五八〇名。

ことは希望ある生活となり、ひいては世界の平和につながるという結びで行われました。その後は吉例の西風流の日本舞踊の奉納があって、なごやかに楽しい時間を過ごさせていただきました。参加者八十余名、仏教行事は重ねることが尊いと考えます。 文責 会長 吉永法雄

瀬 谷 区

市内の区仏のなかで、当区仏は最少の会員数の八ヶ寺で構成されている。しかし、事に当っては親密に協議を重ねて、一致協力し合っていて、よく責を果たしている。 歳末助け合い募金を行い、平成六年十二月に区福祉課へ届け。同年十二月六日に納会を催し、一年の活動を振り返る。八福神の寿老人の奉安場所が二ッ橋の最勝寺様から下瀬谷の勢至堂様へ転座の日が十二月二十一日に決定した。それに伴う新改訂のパンフレット(朱印帳兼用)の印刷もでき、関係機関へ配置し新年を迎える準備も調った。 全通院勢至堂は区内本郷の曹洞宗徳善寺(尾崎正恵住職)の別院で、下瀬谷一―二九一―〇に在る。開創は寛永年(一六二四―四三)。当初は阿弥陀如来を祀っていたが、靈夢により勢至菩薩の尊像を賜り、後に本尊として御祀りする。本尊の開扉は十二年に一度、午年に行われる。縁日は一月二十三日と八月二十三日に行われている。本堂は寛政九年(一七九八)の建立で、二百年の風雪に耐える。境内は区内寺院では一番の高台にあり、西

に富士山を遠望し、見晴らしが良
く、かつてはよく花をつけた名物
のフジの大老樹も見事である。

寿老人は中国の神、南極老人とも
いわれ、寿命を司る、髯明神とも
言う。智恵と長寿を約束してくれ
る神として昔から尊ばれている。

今年の八福神巡りも、かなりの
人出があった。勢至堂では地元の
世話役の人たちが交替で応対をさ
れた。数えたら、十日間で三千人
くらいの方が訪れているらしいと
のこと。びっくりすると同時に、
地域起こしにご霊験あらたかと張
り切って押印などの奉仕当番を、
寒気の強い外で務めている。

一月三十一日に一泊で初会合。
二月十八日に阪神淡路大震災救援
金十万円を集め、神奈川新聞厚生
文化事業団へ届けた。三月十八日
(土)に区戦没者慰霊五十周年忌
法要が徳善寺境内の忠魂碑前で
営まれた。区仏で生花を供え三ヶ
寺が出仕して観音経を誦誦し、尾
崎会長が法話をした。四月二十八
日に宗川寺様を会処にお借りして
今年度の総会を開催。年会費納入
や決算報告、市仏連行事への参加
協力などを話し合った。役員改選
はしないで引き続き担当をしてい
ただくということになった。賽銭
盗人や住所不定無職人の夜間の不
法侵入などの防犯の件も話題にな
った。六月一日の市仏連の旅行に
は五ヶ寺から二十七名が参加した。

栄 区

阪神大震災、地下鉄サリン事件、
加えて景気の長い足踏みなどなど
……。



今年になった途端、いろいろな
ことが起き上がりました。4月初
めの総会で、これらの対処につい
て話し合い「大震災の被災者に救
援金を送る」ことから始めようと
毎月17日JR本郷台駅前に立つて
勸募しています。

時が経つに従って、人々の関心
は新しいことに向いていきがちで
す。総理府の世論調査で「現在の
生活に満足している」が10・4%
「まあ満足」が62・4%と出たそ
うですが「満足」の対極にある”
避難所へ待機所”で今なお苦難の
日々を過ごしている大勢の同胞の
あることを忘れてしまったのでし
ょうか。

被災地の一日も早い復興を祈り、
被災者の皆さんの心に仏さまのご
功德が届いて和やかにられるよ
う念じながら、17日には3時から
5時までの正2時間、街頭募金に
立ち続けています。

文責 塩沢栄一

釈尊奉讃会
からのお祝い!

本会は市仏教連合会の在家居の
方々への布教部と自負して、力不
足ながら努力しております。現在
会員六百名、ひとえに市仏教連合
会の皆さまのおかげと感謝してお
ります。

今年「善光寺さま、一茶、良
寛両師をしのんでの旅」に出かけ
ます。どうか皆さまのお力添えを
おねがいし、さらに多くの会員を
お誘い下さいますよう心からお願
い申し上げます、仏法のますます栄え
ますこと祈念申し上げます。

横浜市釈尊奉讃会
事務局 程木徳明

事 務 日 誌

- 七五二 市仏連発 常務理事会
理事会開催案内
- 七五三十一 常務理事会、理事会
於西有寺
- 七五三十一 第二十二回総会
於西有寺
- 七六一 市仏連仏跡参拝旅行
大光院 パン阿寺

市仏連と奉讃会の団参の住職方



- 七六二二三 三役会 事務引継ぎ
委嘱状伝達 於桂月
- 七八二十 市仏連発 会報原稿の
依頼
- 七八二一 市仏連発 奉讃会だ
より配布依頼
- 七九八 会報第四十一号編集の
ための事前打ち合わせ

編 集 後 記

◎ 自然災害、人為的な痛ましい
事件と、多くの出来事に揺れた
今年であるが、当誌編集にあたり、
皆様方の熱情あふれる原稿
に接し、励まされる思いがした。
◎ 宗教が担うべき新しい諸問題
にあたって、滝川前会長のあた
たかなご法愛に感謝するとともに、
横山新会長の力強いおこと
ばを糧に、市仏連のさらなる発
展を祈念したい。

◎ 九月十七日に台風十二号が関
東沿岸に接近して、待望の恵み
の雨をもたらした。秋の彼岸会
も終わったので、ようやく編集を
完了した。市仏、区仏、釈尊奉
讃会などの諸会合、いろいろな
行事の記事や写真等の寄稿を今
後とも宜しくお願い申し上げます。
◎ 今年特別に暑い日が続く雨
量も少なく、木々もよわりはて
ている。私たち人間さまも同様
八月盆は大変であった。

今年から会報には泉区の東京
寺副住職がスタッフに加わり特
にスムーズに編集ができた。
これからは若い僧侶がたの大
活躍を心から望む。併せて各区
仏の若手のかたからの寄稿をお
願ひして筆をおく。

